

第2回静岡市立小・中学校の適正規模・適正配置方針改定検討会 議事録

1 日時

令和4年10月13日(木)14時～16時

2 場所

清水庁舎第一会議室

3 出席者

【委員】

島田委員、堀井委員、中村委員、隅倉委員、溝口委員、岡崎委員、堀住委員、  
新聞委員、柴田委員、岡村委員

【事務局】

赤堀教育長、中村教育局次長、栗田教育調整監、加藤教育総務課長、  
中野参事兼課長補佐、藤澤主任主事

4 傍聴者 なし

5 協議事項

(1) アンケート及びヒアリング調査の結果報告（9月末現在）

事務局	【資料説明】
溝口委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートからも、適正な人数規模を望まれている人が多いと感じた。</li> <li>・小規模な集団を望まれている方もいるが、やはりある程度一定規模の人数で子どもたちに楽しく過ごしてもらいたいという気持ちが保護者にはあるのだと感じた。</li> </ul>
岡崎委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ねアンケートと同様の考えを自分も思っていたところである。</li> <li>・1学級あたりの人数を少なくという意見もあったとおり、自分の子どもの学校でも学年によって1クラスの数も異なっているため、30人以下の学級に比べて35人の学級だと教室が狭い印象を感じる。同じ学校であれば一定の人数にしてあげたい気持ちがある。</li> </ul>
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年の人数によって、1人変わるだけで1クラスの数が変わってしまうシステムになっている。この方針そのものではないが、教育委員会でも引き続き検討してもらいたい。</li> </ul>
堀住委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詳しくアンケート結果をまとめてもらってありがたい。</li> <li>・協議2での優先度での考えもあるが、「地域別（中学校別）」によって集計を出してみると、学校ごとの困り感がわかるのではないかと。別の問題が見えてくるかもしれない。</li> <li>・通学区域についても、駿河区と葵区でまたがっている地域だと、自治会の方たちが、防災活動や運動会の際に参加するときに通学区域の小校区に参加する</li> </ul>

島田委員	<p>のか、その自治会内の学校に参加するのか迷われると聞いたことがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・跡地利用について、市P連のヒアリングでの民間企業に加えて、大学・大学生や、都市計画の担当にも関わってもらう方法もあるのではと思った。</li> <li>・規模別での傾向は似ているかもしれないが、中学校別のニーズについても集計的に可能であれば、次回の検討会で示してほしい。</li> </ul>
新聞委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査が夏休み前の時期にもかかわらず、回答数が多かったことから、保護者の意識の高さにとても驚いた。</li> <li>・学校からは ICT の推進によりアプリからお便りを配信してもらうことが多いが、アプリだと QR コードを読み取れず、紙での対応の方がやりやすかった。URL とセットで送るなど臨機応変な対応が必要と感じた。</li> <li>・大規模校の方が、困り感が強くあると思っていたが、アンケートからは小規模校の方がより困り感があるのだと感じた。</li> </ul>
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校も ICT にまだ慣れていないので、時間が解決する問題かと思うが、回答者が回答しやすい環境について今後の参考にしてほしい。</li> <li>・大規模校についても困り感がないわけではないが、小規模校・過小規模校の方がより切迫感があるということで、温度差があるのかもしれない。</li> <li>・「ちょうどよい学級数」について、大規模校も検討の視野に入れていく必要はある。</li> </ul>
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模校に対してはどのようにいけばよいかと思っている。</li> <li>・跡地利用については、学区（地域）の中でもいい案を出すなど、民間企業だけの考えだけではなく地域からもヒアリングをしていけば良い検討結果がでるのではないかと。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模校・過大規模校については、中学校にはなく、今後の優先度の話にはなるが、まずは老朽化の状況も踏まえて、過小規模・小規模校のように人数が少ないところに取り組み、そのあと大規模校の順序で取り組むことになるかと思う。</li> <li>・大規模校対策については、静岡市は学校数も多いのでなかなか取組の決め手はない状況である。</li> </ul>
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、さらに人口が減少していくことが想定されているので、大規模校対策はどこの自治体も難しい状況である。</li> <li>・東京などの大都市で今後も増えてくるような地域は新しく学校を新設するなど対策もとれるが、現時点で大規模でも、時間が経つてくると人数が落ち着いてくることもあるため、対策が難しい問題である。</li> <li>・新設以外の対策としては、校舎を増設することや学区編制により別の学校へと</li> </ul>

	<p>分散配置するなどが一例として挙げられる。</p>
堀井委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化に関しては、お金がかかる問題であるため、文科省も「長寿命化計画」として、これまで25年としていた期間が50年、75年と伸ばしているような状況である。</li> </ul>
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国もいかに長く持たせるようにという流れであり、新しく学校を作るのは難しい状況。</li> <li>・大規模校については、うまく長寿命化と合わせながらちょうどいい数にする手立てを検討してほしいが、打開策は見えにくい。しかしながら、適正規模の考えとしては大事な視点である。</li> </ul>
隅倉委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の地域は1小・1中の学校であるが、老朽化も踏まえて施設一体型の小中学校を新しく作れないかと話題にあがることもある。</li> <li>・跡地の活用についても、津波の浸水区域にある小学校なので、高台にある中学校に移設すれば問題が解決し、小学校跡地を防災公園にしたり民間企業と地域とで一緒に跡地活用していければ、地域人口も増えるのではと、やはり地域でも期待している話もある。</li> </ul>
柴田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果の「在籍する学年の学級数について」で「ちょうどいい」「ややちょうどいい」が80%の回答があったことは学校にとって嬉しい回答である。学校としてエールをもらった気持ちである。</li> <li>・小規模校、過小規模校については、回答数の母数が少ないながらも、6割の家庭が多い学級数を希望しているという声が上がっていることは大きなメッセージだと感じている。</li> </ul>
岡村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の望ましい1学年あたりの学級数について、小学校の保護者「3～4学級」、中学校の保護者「5～6学級」の違いがあったが、小学校と中学校で保護者の求めるものが個によるものか集団によるものかで多少異なっていると感じた。</li> <li>・自分の中学校でも、1学年「6クラス」とあると、体育祭や合唱などで2学級ごとの学年の縦割りなど、上級生の関わりや下級生との交流など集団としても見栄えがよいものがあると感じた。</li> <li>・また、「1学級の中の人数は少ない方がよい」という意見に関しては、体育祭など教育活動の中でも感じているところである。</li> </ul>
堀井委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他市の空洞化が進んでいる地域では、伝統ある小中学校の場合に自治会は残したがっていたが、保護者からは数人いる状況で学校を残してもしょうがないと意識が変わることにより、統合が進んでいったという統合事例もあった。</li> </ul>

島田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡市も、保護者や自治会のアンケートやヒアリング結果からも、あまりに子どもの数が少なすぎるのは問題あるという意見が出ている。</li> <li>・跡地に関しては、東京などの都会は土地の民間活用の可能性も高いが、静岡市は山間地が多いため、同様の活用方法は難しいのかもしれない。</li> <li>・やはり学校はコミュニティの核として残しつつバランスを取りながら、適正規模に取り組んでいく必要があると思う。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・跡地利用に関しては、適正規模の取組において最後の方の手続きであるが、土地の状況については地元と協議していく必要があるものである。</li> <li>・学校跡地活用の好事例として、淡路島の観光施設や、浜松市のうなぎ養殖場などまちの活性化につながるものがある。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局からのアンケート報告については、これまでの考え方や議論と概ね同じ方向性であるが、今回の結果はその根拠となるものであり、大きな財産として大事にしていきたい。</li> </ul>
------	--

(2) 取り組む学校の優先度の考え方について

事務局	【資料説明】
堀住委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現方針では、「老朽化」の度合いを数値化して評価していくことを検討しているがどのような状況であるか。</li> <li>・また、今回の台風被害状況により、老朽化の状況が悪化した場合なども評価に反映されてくるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優先度における老朽化の具合については、大きい学校では校舎ごとで築年数等の状況も異なるので、学校ごとに判断すると考えている。また、大規模・中規模改修などの状況によっても、老朽化の状況は変わってくるものである。</li> <li>・老朽状況を含めた数値化について、現時点ではまだ点数化ができておらず、実際に耐震の状況、劣化状況、施設の改修状況などを加味した点数化の検討が必要である。</li> <li>・基礎情報として施設ごとの築年数や改修状況は把握しているので、これから具体的に進めていきたい。</li> </ul>
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化の数値化も含めて、優先度の観点の指標として検討していきたい。</li> <li>・また、優先度の考え方の要素として、保護者アンケートで上がっていた防災や立地状況の側面も考えられる。</li> </ul>
堀住委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先日の台風被害で浸水被害があった学校もあったので、今回のことがきっかけ</li> </ul>

	<p>で老朽化の状況が進んでいくことも考えられるのか。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨漏りに関してはこの台風以前からの課題でもあるが、今回の主な台風被害としては体育館などの床上浸水が3～4校の状況で、ひとまず緊急の対策は完了している。これからの復旧対策に向けて、床の張替え等の改修などを検討しているところである。</li> <li>・校舎のほとんどは鉄筋コンクリート構造のため、木造校舎と違い建物の構造として直接的に老朽化の影響を受けている学校はないと認識している。そのため、今回の件で優先度が影響することはないと考えている。</li> </ul>
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優先度について「地域の要望・合意形成の状況」が入っている点について、地域だけではなく、PTA（保護者）も入らないと検討は進んでいかないと思っている。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会、保護者それぞれではなく、両者がきちんと合意形成された状況であることが必要であると認識している。また、「地域」の中には当然、保護者も含まれていると考えている。</li> </ul>
隅倉委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の地域の学校は150年の歴史があるため、地域の方が特に学校に「哀愁」「郷愁」のこだわりを持っている。</li> <li>・しかし、人口が減少している中、防災面も鑑みるとそうは言われていられない状況である。</li> <li>・これまでの歴史の中で、後から設置された学校の方に子どもが流出している状況で、今回の方針を見直す中で何とか出来る方法もあるのか考えているところである。</li> <li>・地域の中では統合するべきかと思っているが、中村委員の発言のようにPTAや保護者とも慎重に、早めにやっていかないといけないと思っている。</li> </ul>
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去に検討された「新通小・駒形小」についても、なかなか難しかったのではないか。</li> </ul>
堀住委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校同士の統合の検討であったが、地域性の問題から進まなかった状況があったと認識しているが、当時も保護者は1学年1クラスについて懸念していたようである。</li> <li>・今年の5月には、田町小と駒形小とで要望を出した経緯については、やはり地域性が似ていることや小中一貫教育グループ校であることが左右されているのではないか。</li> <li>・新通小の統合については、今回の優先度の観点1、2に当てはまっていたが、地域の合意状況でひっくり返ってしまったことになる。</li> </ul>

島田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者だけの思いでも、地域だけの思いだけでも進んでいかない。</li> <li>・地域の歴史などもあるが、地域と保護者が乗り越えて新しい学校づくりに取り組んでいく必要があり、地域や保護者の要望・合意状況について、優先度として大事な視点である。</li> </ul>
溝口委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校区が一緒であればそんなに問題はないのではないかと。新通小は末広中学校区、駒形小は安倍川中学校区であることを踏まえると、中学校区が異なると地域の文化的に異なるので、統合は難しかったのかもしれない。</li> <li>・これまでは、1つの中学校区内の統合で、共通点がありまとまりやすい印象を伺える。</li> <li>・PTAとしては、1つの新しい学校となり一緒になったからこそ、学校をどのように良くしていこうか考えるPTAになればよいと思う。一つになった後で、子どもたちの為に楽しい企画など考えていければと思っている。</li> </ul>
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1つの小学校から複数の中学校に進学する地域の場合、優先度の考え方から脱落しやすい点ではあるが、そこを含めて地域・保護者達がどのような環境が子どもたちのために望ましいか考えてもらうというメッセージでもあるのではないかと。</li> <li>・どちらかといえば保護者の方が、そのタイミングで一緒に統合に向けて考えていきやすいかと思う。若い保護者の意見から地域を説得していくというパワーバランスに変化し、それが議論のきっかけにもなるのではないかと。</li> </ul>
岡崎委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方のご意見も大切だが、実際通っていくのは子どもたちなので、子どもファーストとして子ども・保護者が過ごしやすい教育環境になればと思っている。</li> <li>・庵原地区は1小1中であるが、小中一貫教育の縦のつながりの部分が保護者として実感はあまりない。施設一体型の小中学校になれば9年間の学びもさらに良くなっていくのではないかと。</li> <li>・PTAとしても、子どもの数が減少するとともに私立中学に進む子どもも増えていることが課題となっている。</li> <li>・施設一体型になれば地元に残る子どもも増えるのではないかと。小中一貫教育としての教育活動を進めていく中でも、施設の適正配置につながっていくのではないかと考えている。</li> </ul>
堀住委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の強い思いにより子どもたちの良い環境が作れないのは悲しいため、地域の方の足並みをそろえるのは大事と感じている。</li> <li>・現方針で30年経っている施設が多い、と記載されているが、築60年経っている施設が多い状況なので、何年経過していると検討してもらえるのだろうか。</li> </ul>
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化の状況で、例え60年以上経過していても途中で改修されていれば、一</li> </ul>

事務局	<p>概に老朽化が深刻ということでもないという理解でよいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長寿命化の流れの中で、国の方針も含めてそのようなことは事実である。</li> <li>・老朽化を判断する上で、何を優先するのか、点数の付け方が今後の検討になっていく。</li> </ul>
新聞委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点1、2に加えた地域の合意という考え方について、特にアンケートで未就園児の防災の意識が高いというアンケート結果があったので、観点1の人数から、観点2の老朽化・施設の状況（防災・立地状況）という整理で良いと思う。</li> <li>・母校が統合された学校なので、当時も地域の人間として反対はなかった。しかし、地域の住民に話が後から降りてきて置いてけぼり感があったので、地域の人には合意形成について情報開示をこまめに、今回の優先度も早めに提示して、数値化できるものがあれば納得してもらえるのではないかと。</li> <li>・統合に向けていきなり話をするのではなく、徐々に進めていくことが必要かと思う。</li> </ul>
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回、保護者アンケートを実施したことが意思表示であり、この検討会も公開されて情報開示もしている。</li> <li>・今後もパブリックコメントをする予定であるが、行政が発信していてもなかなか自分ごとにならないことも多いので、検討会の皆様の立場からも周知してもらえるとありがたい。また、その発信努力も教育委員会にもしてもらいたい。</li> </ul>
柴田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回も話があったが、ある程度数値化され、皆が納得できる「学級数」が優先順位の第一位になるのがやはり最善と思っている。</li> <li>・2番目の老朽化については、こども園の保護者意見でも安全面・防災面が重視されている。</li> <li>・今回の台風によって、防災の意識がさらに高まっていると思うため、防災の観点を無くしては子どもの安心・安全はないかと思っている。</li> <li>・堀住委員の発言にもあったが、今回自分の小学校も被害あったので、保護者・地域の方が様々な思いを抱えていると感じている。そのため、数値的な子どもの人数と、老朽化・防災面の2点の観点が大事である。</li> <li>・庵原地区のように1小1中の小規模校の適正規模の取組と小中一貫教育の教育活動の取組について、整理していきながら考えていきたい。</li> </ul>
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災面については、津波・大雨・地震など複数の観点がある。その中でもさらに優先度が決まってくるのではないかと思っている。</li> </ul>
岡村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでのデータに基づいて、この優先度は妥当だと思っている。</li> <li>・「学校の要望」という記載はないが、学校も地域及び保護者の方々の中にも含まれ、PTAのT（teacher）である。統合の際には学校とも相談してすり合わせし</li> </ul>

島田委員	<p>ていくことが必要かと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観点1の過小規模校については、学校の要望が子どもファーストでもあると思っている。</li> <li>・最優先としては過小規模校が当然と思っているが、その先に過大規模校や1学級当たりの人数の話も進んでもらえるとよいと思っている。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の中の保護者が入っているという考えの整理があつたが、PTAの考えが地域の意見を推し進めている状況もあるのかもしれない</li> </ul>
堀井委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の中の保護者が入っているという考えの整理があつたが、PTAの考えが地域の意見を推し進めている状況もあるのかもしれない</li> <li>・地域の要望の「×」についての優先度について、基本は地域からの要望を聞いて、合意形成を踏まえて考えると思うので、「×」が優先度に入るのは微妙であると考えている。</li> <li>・学校の要望という意見もあつたが、子どもファーストの考えとして今後はCS（コミュニティ・スクール）として学校の要望が入ってくる時代になるのかもしれない。</li> <li>・1つの小学校から複数の中学校へ進む学区があるが、考え直すタイミングに来ているかもしれない。CSでも進めるにあたり実践として難しい状況も感じている。</li> <li>・小中一貫教育を進めていくにあたり、1小1中に比べて、学区が入り組んでいる学校はCSにおいても学校経営の競い合いになってしまう恐れもある。</li> <li>・東京では、公立中学校にCSができたことで私立中学校に進む子が減ったということがCSの成果になる事例もある。</li> <li>・小中学校の関係をダイナミックに考える必要があるのではないかな。</li> <li>・他市の事例では、築年数が経っているのに大規模改修をしていない学校があつたことから、老朽化についてもしっかり取り組んでもらいたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かなり古い施設の場合、大規模改修しなくても部分的に中規模改修を定期的に行っているのでは、昔のままそのまま手付かずという校舎はないが、改修の時期や予算の関係で大規模改修のようにきれいなリニューアルができない実情はある。</li> <li>・学校からの要請を受けて緊急性の高い箇所について早急に対応するようにしているのでは、現状、危険な場所はないと思っている。</li> </ul>
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組む優先度の考え方については、概ね事務局の方向性でよいと思う。</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優先度の考え方について、老朽化の状況（防災面の立地状況）が含まれているが、防災も含まれていることが分かりづらいかもしれないので、柴田委員や堀住委員のご意見を踏まえて「学校安全の状況」のように要素と表記を合わせてみてはどうか。（最終的な表記については、事務局で考えてもらえればよい）</li> <li>・地域の要望や合意状況について、単に小・小の統合や小中一貫校化だけではないことから、要素に「小中一貫教育の取組状況など」を加えてみてはどうか。学区が入り組んでいる地域の小中一貫教育を促すという意味でも加えてみてはどうか。</li> </ul>
柴田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の台風災害により、高台にある中学校の方が小学校よりも施設面で安全と思った方が多いかと思う。本来、教育活動の面からの小中一貫教育ではあるが、施設面としての小中一貫も視点として入るのではないか。</li> </ul>
隅倉委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は避難所としての機能するように防災面の機能は持っている。</li> </ul>
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域は学校の機能の在り方を含めて、静岡型の教育面の小中一貫教育の在り方の考えがあるが、ハード面としても今回の台風災害を踏まえて、子どもたちの安全面を踏まえて高台の学校に1つになったらよいのではないかという地域・保護者の考えが変われば、施設一体型に進めることはできる。</li> <li>・しかし、そこを観点や指標にすると優先度から落ちてしまう可能性も増えてくるので、観点の要素として考えてみてはどうか。事務局に検討いただきたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堀井委員の合意形成「×」について事務局も悩んだが、子どもファーストとして学校規模を考えたとき、市教委として合意形成がないからほっといてもいいのかというスタンスではなく、取り組むべきだというスタンスでいる。</li> <li>・市として地域に投げかけて検討してもらおうという考えから、優先度の考え方に「×」を取り入れ、無理やり進める優先度ではなく市としてしっかり取り組めるように考えていくという意味である。</li> </ul>
堀井委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「×」があると理解しにくいので、マトリクスの中にその説明を加えた良いと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「×」を「○」に変えていくよう市として取組を進めていく記載を優先度の表に補記する形で入れたい。</li> </ul>

(3) 方針改定（素案）について

事務局	<b>【資料説明】</b>
堀住委員	・取組方策の中で「学校選択制導入」の記載についてはどのような意味だろうか。
事務局	・静岡市の場合、山間地で小規模特認校制度があるので、そのような検討をしていきたいと思っている。実際の記載は誤解を招かないよう検討していきたい。
島田委員	・改定素案について、特に話足りないところ、加えた方がいいところなど、事務局にご意見を頂けたらと思っている。 ・第3回に向けてブラッシュアップした案を委員の皆様に事務局より説明する予定である。

6 事務連絡

7 閉会

静岡市立小・中学校の適正規模・適正配置方針改定検討会

会議録署名人 \_\_\_\_\_